

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[いっぱいになっているのがログなのかデータベースなのかを判別する方法](#)

[ログとデータベースの違い](#)

[トランザクション ログに必要な大きさ](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、「SQL 1105」エラー メッセージが発生する理由について説明しており、そのエラーが関連するのがデータベースなのかトランザクション ログなのかを判別する方法および考えられるソリューションを紹介しています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Intelligent Contact Management (ICM)
- Microsoft SQL Server

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco ICM バージョン 4.6.2 以降
- Microsoft SQL バージョン 6.5 および 7.0

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[いっぱいになっているのがログなのかデータベースなのかを判別](#)

する方法

「SQL 1105」のエラーメッセージが表示された際に、データベースがいっぱいなのか、トランザクションログがいっぱいなのかが判別できない場合があります。

Cisco ICM のデータベースでデータ用のスペースが使い尽くされると、「Msg 1105, Level 17, State 1」のエラーメッセージが表示されます。このメッセージでは、デフォルトのセグメントがいっぱいになっているため、SQL Server でスペースが割り当てられないことが示されています。これにより、データベースが破損する可能性があります。破損したデータベースは、あらかじめバックアップしてあるコピーで置き換えることができます。データベースがいっぱいになっている場合は、古いデータを消去するか、データベースのサイズを増やすことができます。Cisco ICM では、**Purge Adjustment** 機能と **Auto Purge** 機能、さらに次に示すような Alarm Tracker により、この状況を防ぐ手段が提供されています。

トランザクションログでスペースが使い尽くされると、「Msg 1105, Level 17, State 2」のエラーメッセージが表示されます。このメッセージでは、ログのセグメントがいっぱいになっているため、SQL Server でスペースが割り当てられないことが示されています。この問題を解決するには、トランザクションログのサイズを大きくするか、トランザクションログをクリアします。トランザクションログをクリアする方法は、『[SQL サーバのトランザクションログをクリアする方法](#)』を参照してください。

State 1 か State 2 のエラーが発生した場合、SQL Server ではそれ以上データベースの操作は行われず、Alarm Tracker イベントが表示されます。通常 `\ mssql \ \ errorlog` ディレクトリに常駐する SQL エラー ログファイルのエラーを表示できます。DOS コマンドプロンプトで `cd` コマンドを発行してこのディレクトリに切り替えてから、`type errorlog` コマンドを発行するとエラーログが一覧表示されます。

ここで、1105 エラーメッセージ中の State 1 はデータベースがいっぱいになっていることを示しており、State 2 はトランザクションログがいっぱいになっていることを示しています。エラーメッセージの各タイプの例を次に示します。

```
Error : 1105, Severity: 17, State: 1Can't allocate space for object '6' in database 'xxx_sideA' because the 'system' segment is full. If you ran out of space in Syslogs, dump the transaction log. Otherwise, use ALTER DATABASE or sp_extendsegment to increase the size of the segment.SQL Server System Error: 1105, State 2, Severity: 17, Message: Can't allocate space for object 'Syslogs' in database 'xxx_sideA' because the 'logsegment' segment is full. If you ran out of space in Syslogs, dump the transaction log. Otherwise, use ALTER DATABASE or sp_extendsegment to increase the size of the segment.SQL SERVER DATABASE xxx_sideA IS OUT OF SPACE.
```

注xxx はインスタンス名を表しています。

ログとデータベースの違い

各 SQL Server のデータベースにはトランザクションログがあり、データベースの変化が記録されています。Database Server、Historical Data Server (HDS)、および Distributor Administrative Workstation (AW) 上の Cisco ICM のデータベースには、Cisco ICM のデータとは分離されたトランザクションログがディスク上に割り当てられています。

データベース行の追加や削除が行われるたびに、その行が SQL Server によりトランザクションログに書き込まれます。行の更新が行われると、古いデータと新しいデータの両方が SQL Server によりログに記録されます。新規オブジェクトの追加、許可の変更、ユーザの追加、およびテーブルのスペースの割り当てが行われると、それに関連するトランザクションが SQL Server

によりログに記録されます。

トランザクション ログが完全にいっぱいになると、データベースに対する変更はディセーブルにされます。このため、トランザクション ログで利用可能なスペースの総量は Cisco ICM データベースへの重要なリソースなので、密に管理する必要があります。

[トランザクション ログに必要な大きさ](#)

トランザクション ログのサイズは、データベースの作成時に設定します。トランザクション ログのサイズはデータベースのサイズによって異なります。一般的には、AW DB のトランザクション ログのサイズは 100 MB ~ 200 MB、Logger と HDS のトランザクション ログのサイズは 200 MB ~ 500 MB である必要があります。

Cisco では、データとログを別の SQL デバイスに置くように Cisco ICM のデータベースを作成することを推奨しています。データとログを同じデバイス上に置くと、両者の間でスペースの競合が発生します。データとログを分離すると、パフォーマンスが向上します。そうすることで、スペースをより効率的に管理できます。データベースでスペースが使い尽くされると、生成されたエラー メッセージに、データ ストレージ領域がいっぱいなのか、トランザクション ログがいっぱいなのかが表示されます。データとログが統合されていると、データ ストレージ領域やトランザクション ログがいっぱいになった際に通知されません。

[関連情報](#)

- [SQL サーバのトランザクション ログをクリアする方法](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)